



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

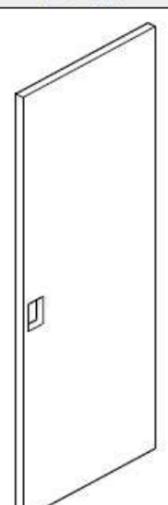
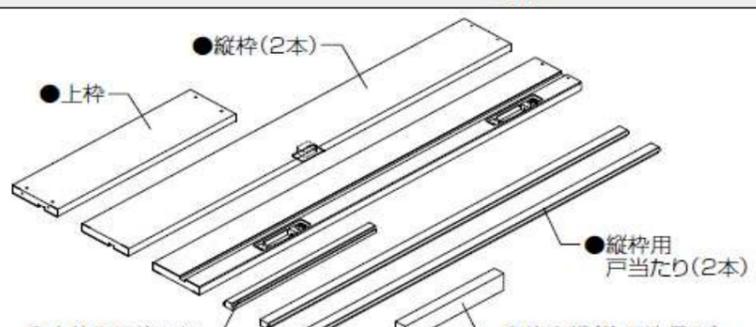
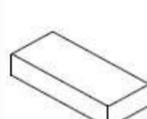
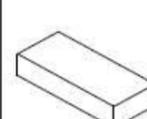
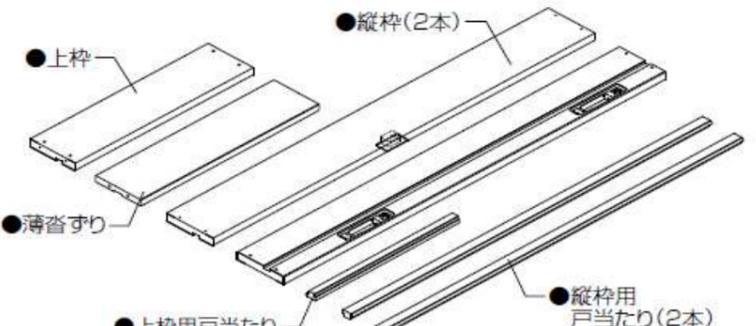
- 本体の吊込み・取外しは、必ず2人以上で作業をしてください。丁番をねじ固定する際は、扉を90°に保持した状態で行なってください。本体の転倒や本体と枠の間に指を挟み、ケガをするおそれがあります。
- 調整後本体・枠への固定ねじおよび、丁番本体の止めねじが締まっていることを必ず確認してください。丁番固定ねじの締め忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。
- 建付け調整後、丁番側の本体と縦枠のチリ寸法が5mm以上あるか確認してください。開閉時に本体と縦枠が干渉し、建具がキズ付いたり、丁番が破損する原因になります。

■取付け上のお願

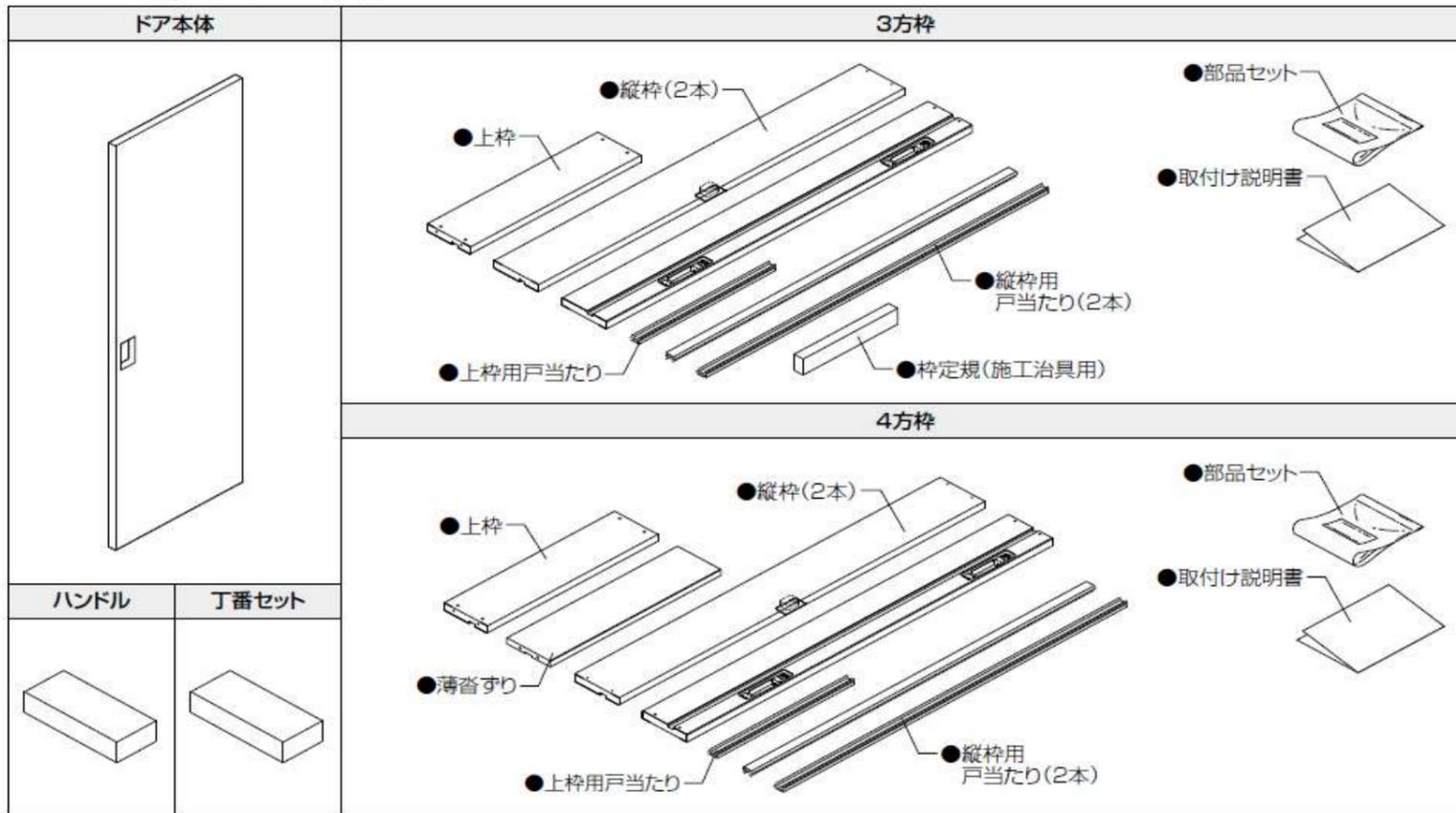
- 枠取付の際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
 - 枠にソリ、ねじれがある場合があります。枠を取付ける時は、かい木を使用し、建具枠の水平・垂直を調整してください。
 - 造作材の取付けや建具枠取付け時のかい木には、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
 - 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
 - かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
 - 本製品のねじ締め付け時には、クラッチ付きドライバーの弱で締めてください。締め付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
 - 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
 - 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
 - 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けてください。
 - 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
 - 丁番は指定のねじで締め付け、ガタツキのないように固定してください。調整後ガタツキがないことを確認してください。
 - 建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には、必ずすき間を作って納めてください。
 - 上枠とまぐさ、縦枠と柱・間柱とのすき間は必ずかい木を入れてください。
 - 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
 - ドアストッパーを壁に取付ける場合は、補強材が入っていることを確認してください。
- ※建築工事中は、ドア本体を養生・保全のため取外しておき、施工完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

●クラシック / モダン(標準ドア・トイレドア・親子ドアの場合)

<p>ドア本体</p> 	<p>3方枠</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●上枠 ●縦枠(2本) ●縦枠用戸当たり(2本) ●上枠用戸当たり ●枠定規(施工治具用) <p>●部品セット</p> <p>●取付け説明書</p>
<p>ハンドル</p>  <p>丁番セット</p> 	<p>4方枠</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●上枠 ●縦枠(2本) ●薄沓すり ●上枠用戸当たり ●縦枠用戸当たり(2本) <p>●部品セット</p> <p>●取付け説明書</p>

●ラフィス(標準ドアの場合)



■枠セット明細

	標準ドア	トイレドア	親子ドア
縦 枠	2	2	2
上 枠	1	1	1
戸当たり	縦2・上1	縦2・上1	縦2・上1
(※1)枠定規	1	1	1
(※2)薄沓すり	1	1	1

※1)3方枠の場合のみ含まれます。
 ※2)4方枠の場合のみ含まれます。

■ハンドルセット

ハンドル+台座セット	1組
台座取付けねじ(皿小ねじM4×8)	4本
ねじカバー	1個

■取付け範囲 (単位: mm)

	ノンケーシングタイプ		
	NC156	NC171	NC180
対象壁厚	116~130	131~145	146~160

■開口部の作り方

※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

開口寸法A	製品寸法W+10mm
開口寸法B	製品寸法H+5mm

■隠し丁番セット

	標準・ トイレドア用	親子 ドア用
隠し丁番(上用)	1	L/R各1
隠し丁番(下用)	1	L/R各1
ケースカバー	2	L/R各2
丁番ねじセット (皿タッピンねじφ4×30)	1	2
吊込みピース	2	4
丁番固定ねじ(皿小ねじM4×12)	4	8
吊込み時のお願い	1	1

■部品セット

標準ドア・トイレドア用

	3方枠	4方枠
組立て用皿小ねじM4×50	4本	8本
上枠・縦枠取付け用DNビス (皿木ねじ)φ3.8×50	20本 (22本)	20本 (22本)

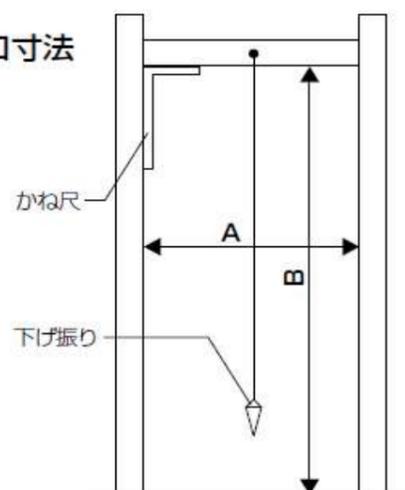
※()内本数はラフィス(H23)用です。

親子ドア用

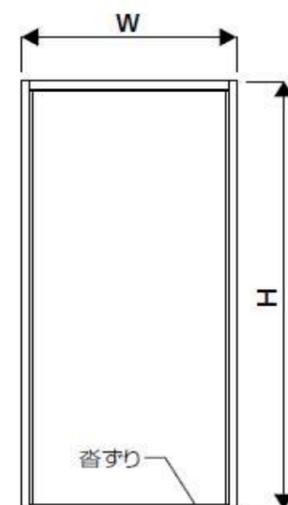
	3方枠	4方枠
組立て用皿小ねじM4×50	4本	8本
上枠・縦枠取付け用DNビス (皿木ねじ)φ3.8×50	20本	20本
フランス落とし受け	1個	—
フランス落とし受け取付け用 皿木ねじφ3.5×13	2本	—

●ドアストップセットは別売りです。

●開口寸法



●製品寸法



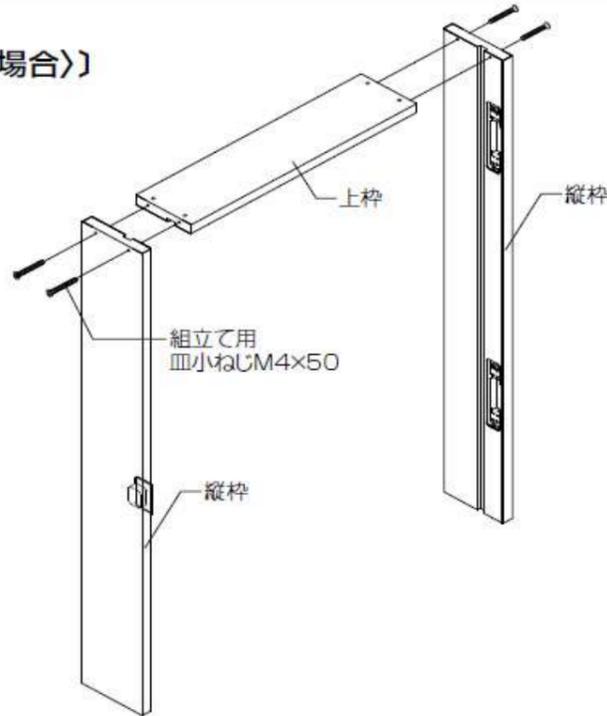
■取付け順序

1 枠の組立て

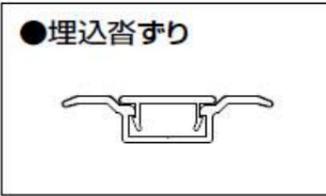
〔3方枠の場合〈床先張り(枠後付け)の場合〉〕

- 下図のように各部材を組合せ、同梱のねじで固定します。

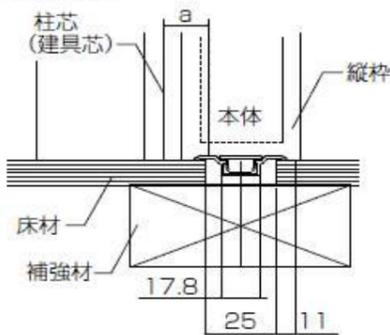
●お願い
●組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。



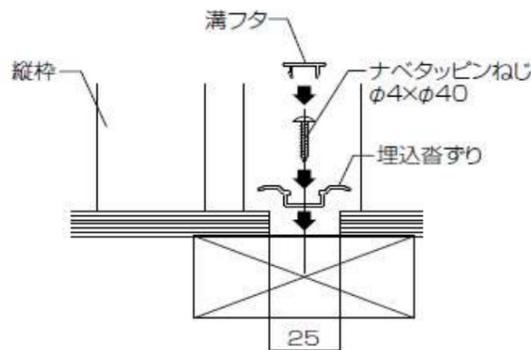
- 3方枠に埋込沓ずりを使用する場合
※埋込沓ずりセット(別売り)を使用してください。



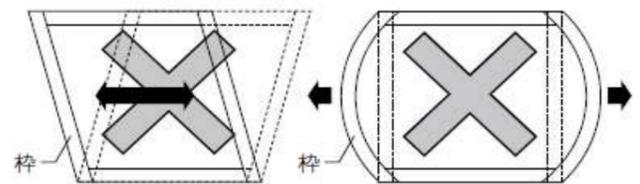
- ①補強材を必ず入れ、下図の位置に25mmあけて床材を張ります。
※躯体に縦枠を仮止めして位置出しをしてください。



- ②埋込沓ずりを、戸当たりに接する位置にねじ止めし、溝フタをはめ込みます。



- お願い
●枠組立て後、揺らす・引張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
●ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。

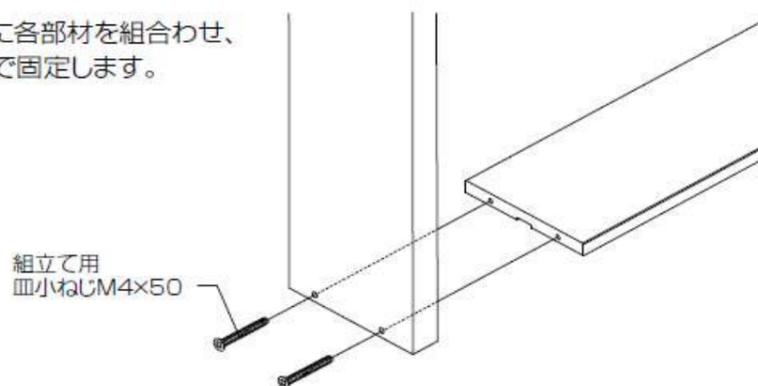
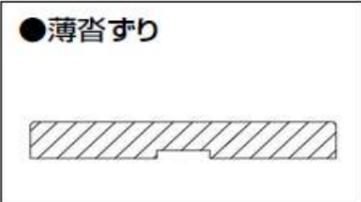


枠機種	NC156	NC171	NC180
a寸法	41	48.5	53

〔4方枠の場合〈床後張り(枠先付け)の場合〉〕

- ※縦枠と上枠の組立ては、3方枠の場合の記載を確認してください。

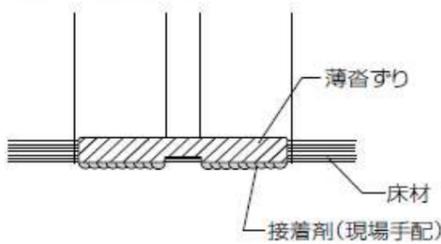
- 右図のように各部材を組合わせ、同梱のねじで固定します。



■躯体への取付け方

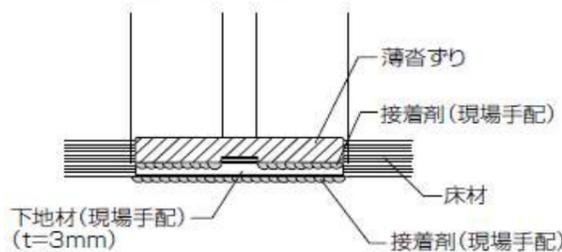
●床材厚さ12mm

- ※必ず薄沓ずりに接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



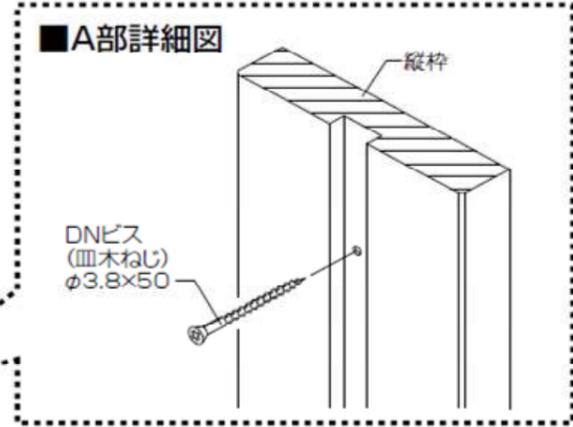
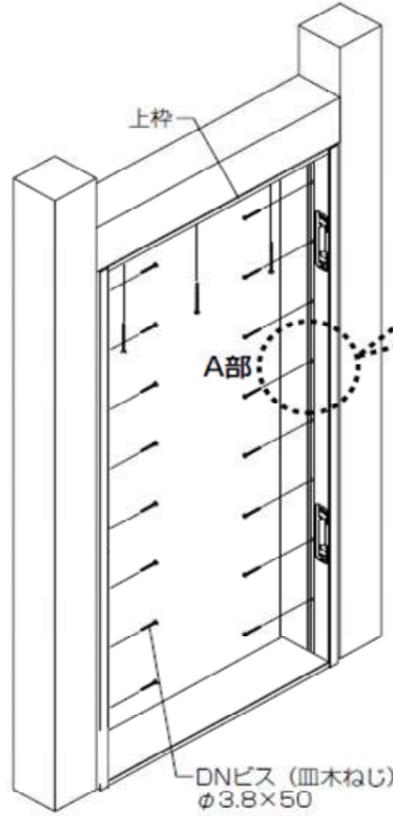
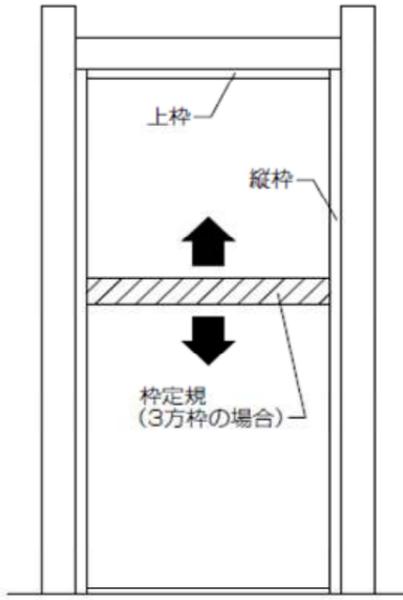
●床材厚さ15mm

- ※必ず薄沓ずりと下地材に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



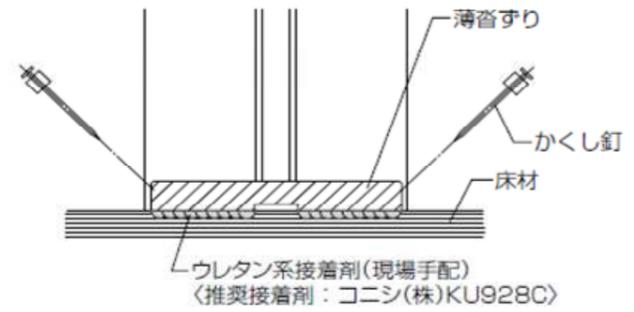
2 枠の取付け

- ① 枠を開口部に固定します。
※床先張り（枠後付け）の場合は上枠・縦枠のみ固定します。
- ② 枠定規ですき間が生じていないことを確認した後、本固定します。



【床後張り（枠先付け）の場合】

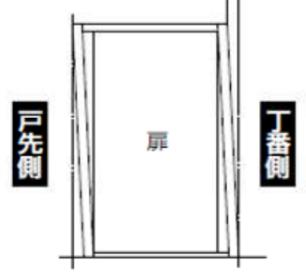
- 薄沓すりは接着剤を塗布し、かくし釘などで固定します。



■取付け精度の許容範囲

※横方向の倒れ・奥行き方向のねじれ・枠のタイコ・ツツミが3mmを超える場合は、3mm以内になるように取付けを修正してください。（開閉に支障をきたす原因となります。）

●横方向の倒れ



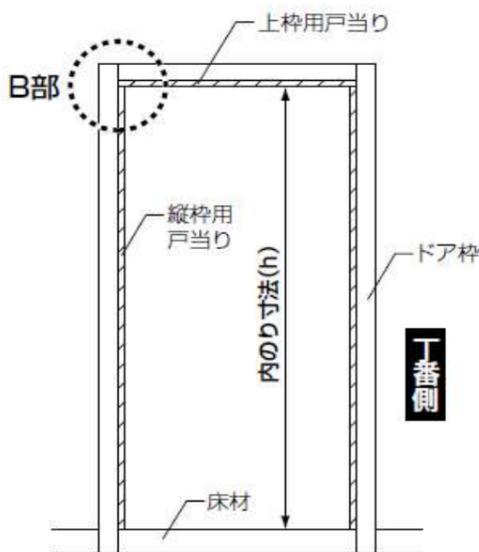
●奥行き方向の倒れ



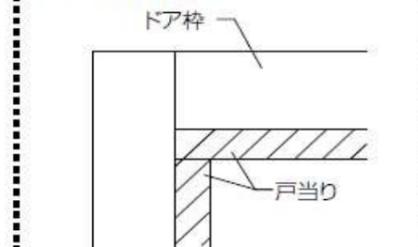
3 戸当りの取付け

【クラシック／モダンの場合】

- 壁材・床材を仕上げた後、戸当りを取付けます。
- 同梱の戸当りを現場寸法に合わせて下端を切詰め、木工用ボンドで枠に固定します。
- ① 上枠戸当りを先に取付けます。
- ※ 仮止めする場合は、専用かくし釘を使用してください。（「■かくし釘使用方法」参照）



■B部詳細図



■戸当り向き



■かくし釘使用方法

- ① 頭釘
- ② 折断筋
- ③ 抜け止め筋
- ④ 残留釘
- ⑤ 弾力材
- ⑥ 接着材
- ⑦ グランドライン部材
- ⑧ パッチャルペンシル材

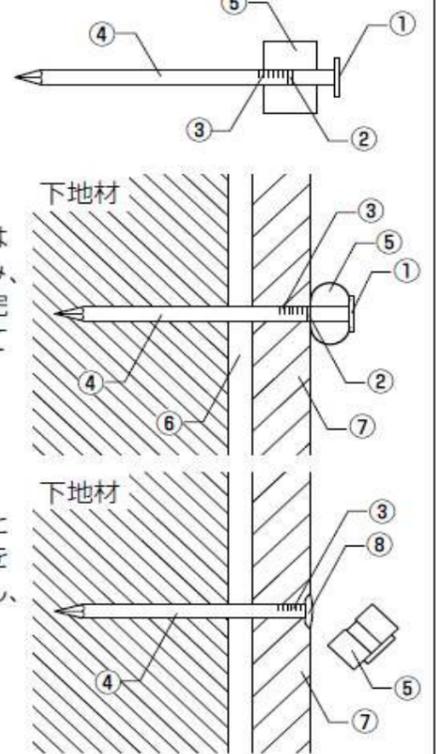
【仮止めする場合】

頭釘①を打ち込むと折断筋②はグランドライン部材⑦に入り込み、これで仮止め完了です。接着完了後、弾力材⑤を横から叩いて折取ります。

【本止めする場合】

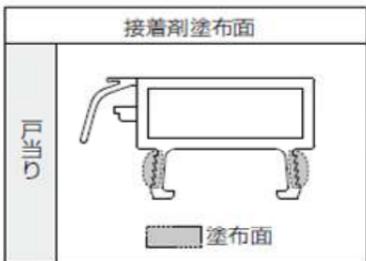
抜け止め筋③が働き「本止め」となります。さらに折り取り部をパッチャルペンシル材⑧で補修し、完了となります。

●部分名称

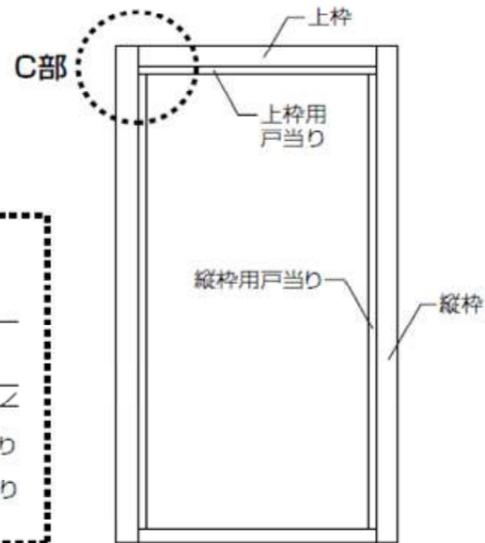
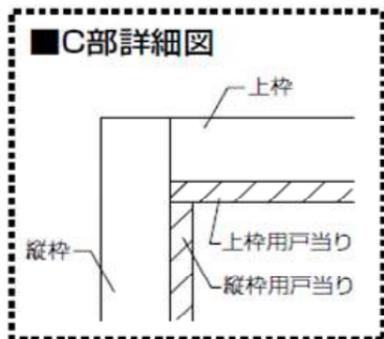


【ラフィスの場合】

- ①現場で戸当りの寸法を合わせて切断してください。
 - ②戸当りの足の外側(リップのある面)に接着剤(現場手配)をつけ、固定してください。(塗布面は下図参照)
接着剤(現場手配)がはみ出した場合は必ずふきとってください。
- ※戸当りは、埋込沓より先に取付けてください。
※上枠用→縦枠用の順に取付けてください。



お願い
●ハンマーなどで直接たたき込まないでください。



4 ドア本体の取付け・取外し

■ドア本体の取付け方

- ①ドア本体に、本体側丁番を皿タップピンねじφ4×30で取付けます。(取付けねじは、「隠し丁番セット」に同梱されています。)

お願い

- 丁番ねじを締める時は、ねじを空転させないようにクラッチ付ドライバーの弱で締めてください。
- 本体を保管する際は、下記の状況にあたる場所には置かないでください。
・直射日光の当たる場所 ・昼夜などで温度差の激しい場所
・湿気が多い場所(本体のソリ・ねじれなどの原因になります。)
- 長期にわたる本体の立て置き保管はせずに、寝かせた状態での保管としてください。本体のソリ・ねじれなどの原因になります。

▲注意

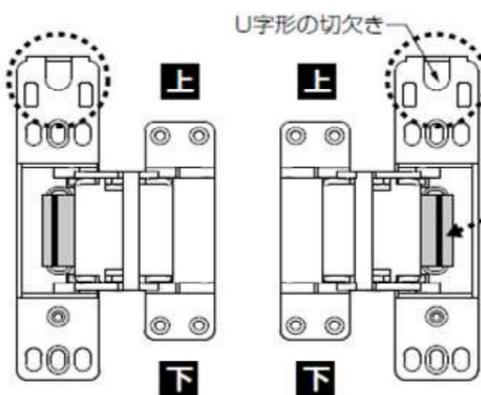
- 本体の吊込み・取外しは、必ず2人以上で作業をしてください。丁番をねじ固定する際は、扉を90°に保持した状態で行なってください。本体の転倒や本体と枠の間に指を挟みけがをするおそれがあります。

【隠し丁番の上下と取付け方向】

- 取付け前に、丁番の上下・左右を確認してください。

●右吊元(R)

●左吊元(R)



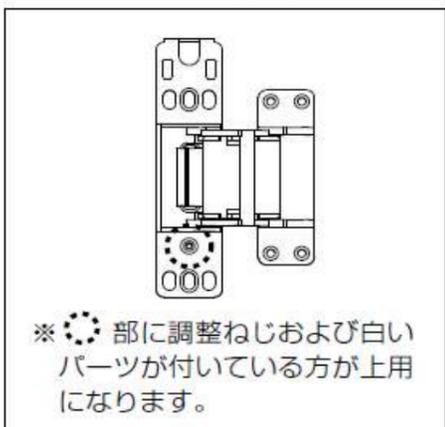
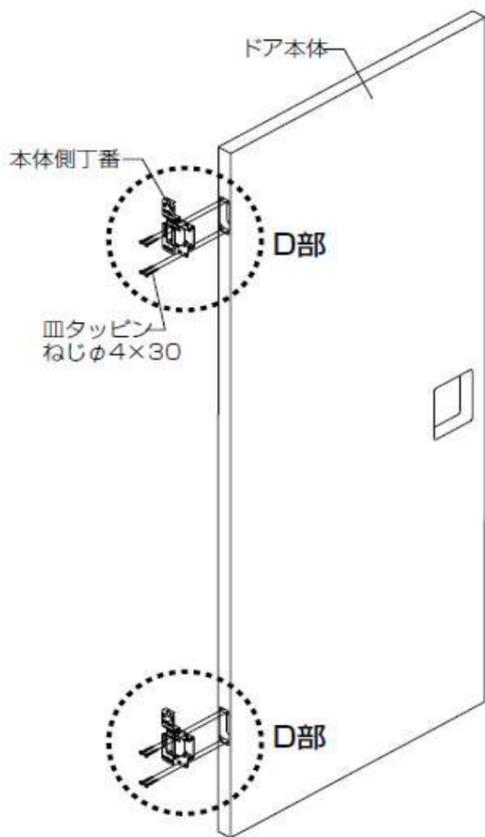
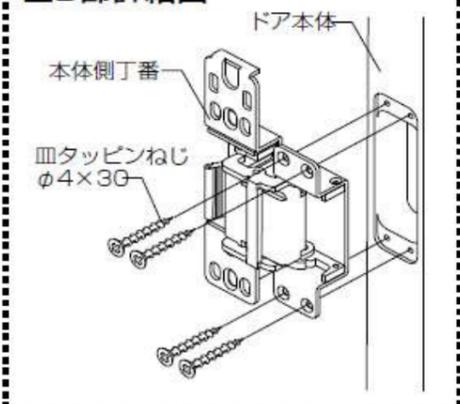
●吊込みピース



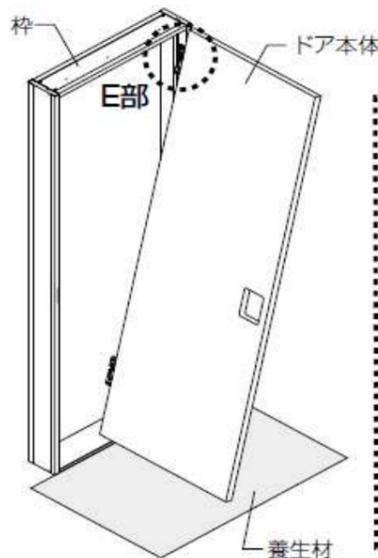
※この部品は本体吊込み時に必要です。吊込みを完了するまで外さないでください。

※U字形の切欠きがある方が上になります。

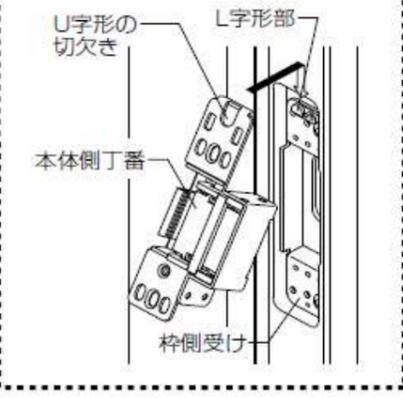
■D部詳細図



- ②本体を90°開いた位置で、本体側の上下丁番を下図のように本体を斜めにした状態で枠側受け部品のL字形の部分に、本体側丁番(上用)のU字形の切欠き部を引掛けます。



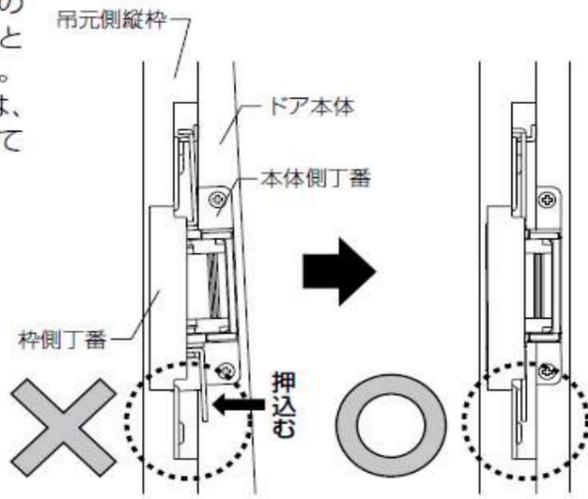
■E部詳細図



お願い
●本体を取付け又は取外す時は、床にキズを付けないよう、床を養生してから作業を行なってください。

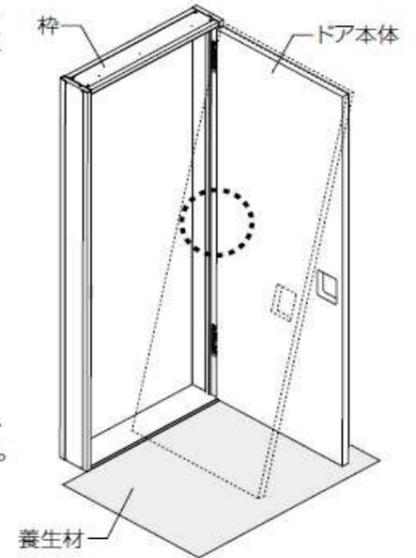
※図は右吊元(R)本体を示しています。

※本体側の丁番が枠側の受けに入っていることを確認してください。入っていない場合には、下図の位置に指を当てて押込んでください。



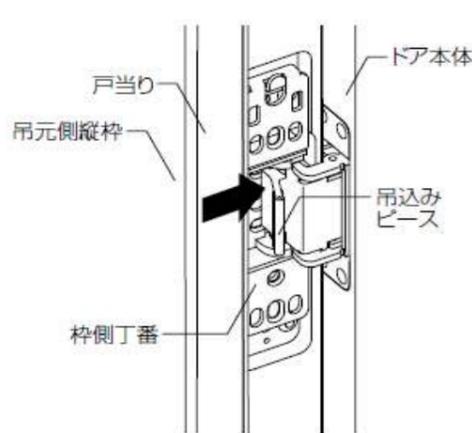
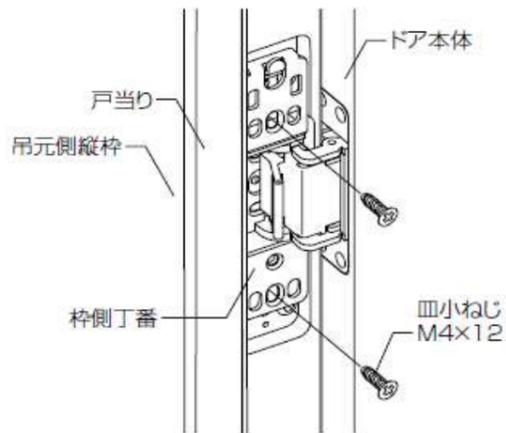
③本体を垂直な状態に戻しながら、本体側の下丁番を枠側の受けに押込みます。

※部に手を挟まないように、ゆっくりと扉を立ててください。



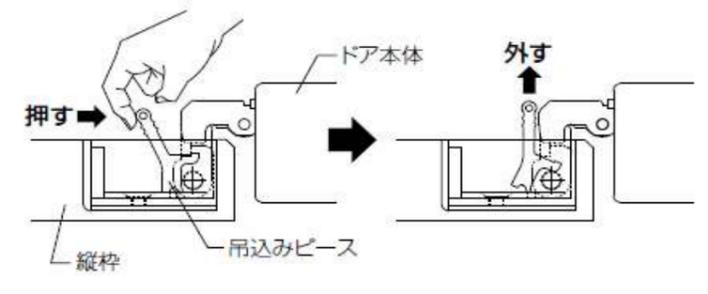
④本体側丁番を枠側の受けに皿小ねじM4×12で固定します。(取付けねじは、「隠し丁番セット」に同梱されています。)

⑤吊込みピースを取外します。



【吊込みピースの外し方】

●下図のように、ピース先端を矢印の方向に押すと外れます。
※吊込みピースは、丁番をねじ固定するまで外さないでください。

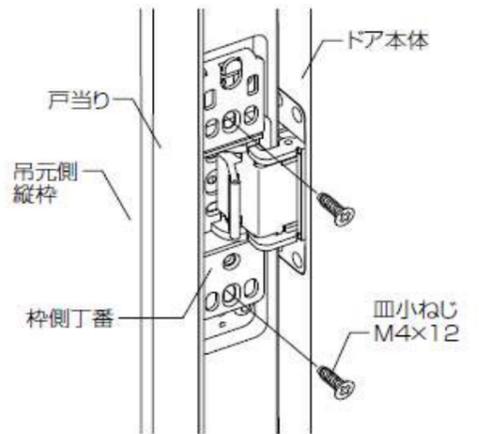
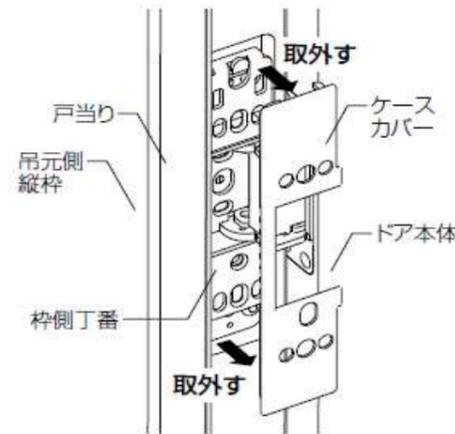
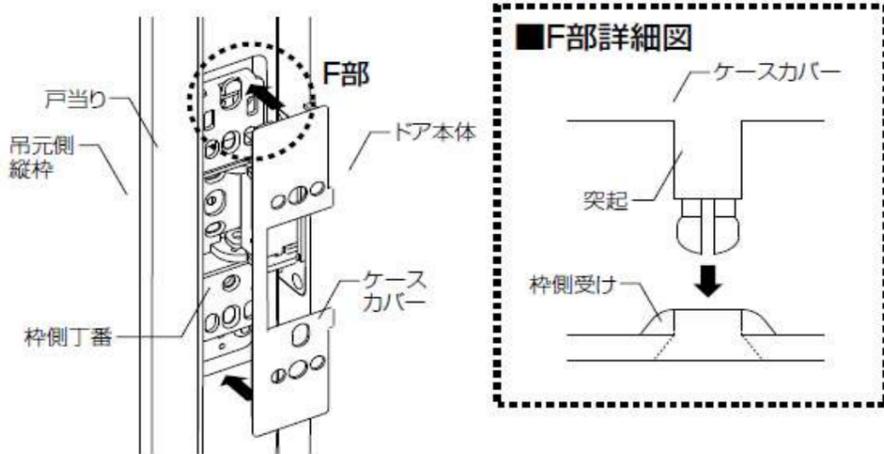


⑥枠側の上下丁番にケースカバーを取付けます。

■ドア本体の取外し方

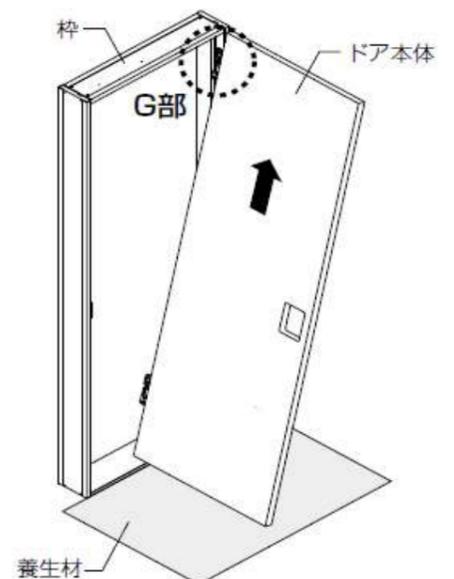
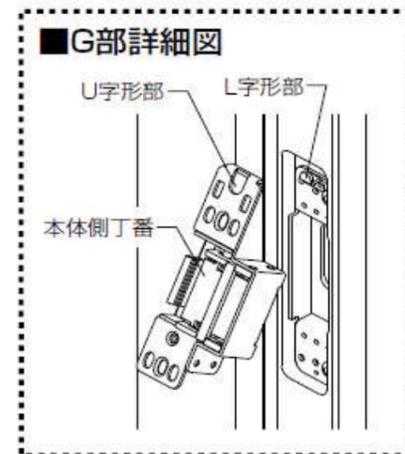
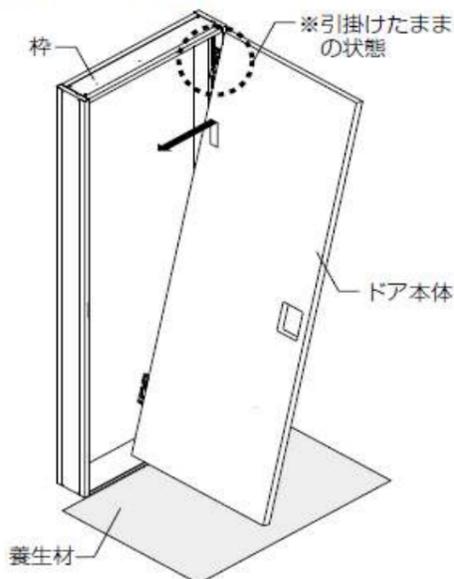
①枠側の上下丁番のケースカバーを取外します。

②本体を90°開いた状態にして固定ねじを取外します。



③上丁番を引掛けたままの状態、下丁番を枠側受けより外します。

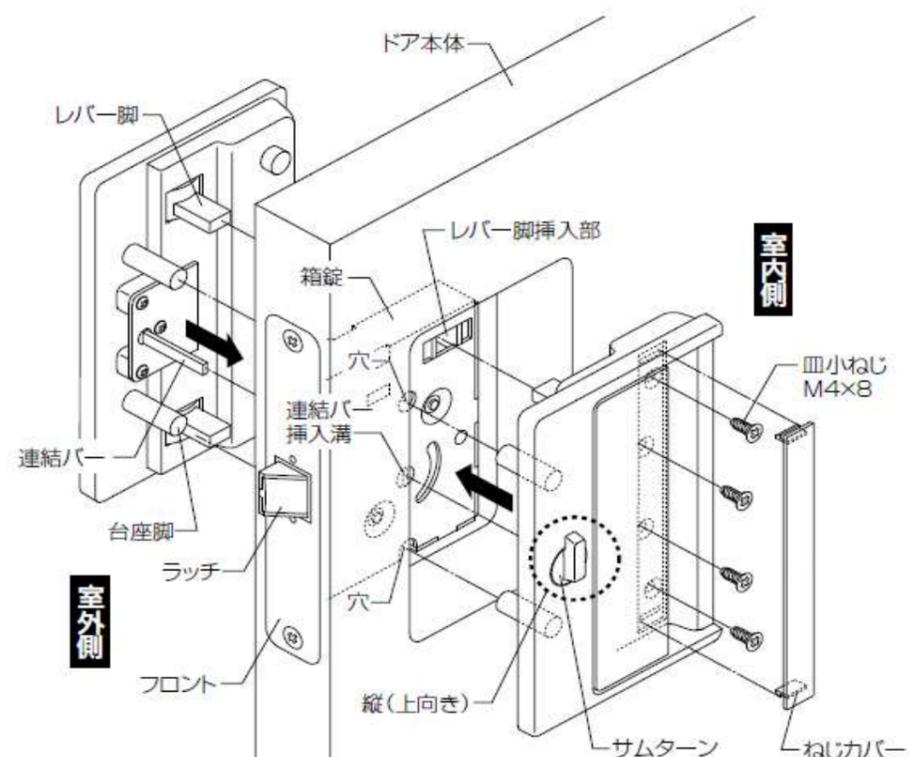
④扉を傾けた状態で少し上に持上げて上丁番を外します。
※枠側受け部品のL字形の部分から、本体側丁番(上用)のU字形の切欠き部を外すように扉を持上げて、丁番を外します。



5 ハンドルの取付け

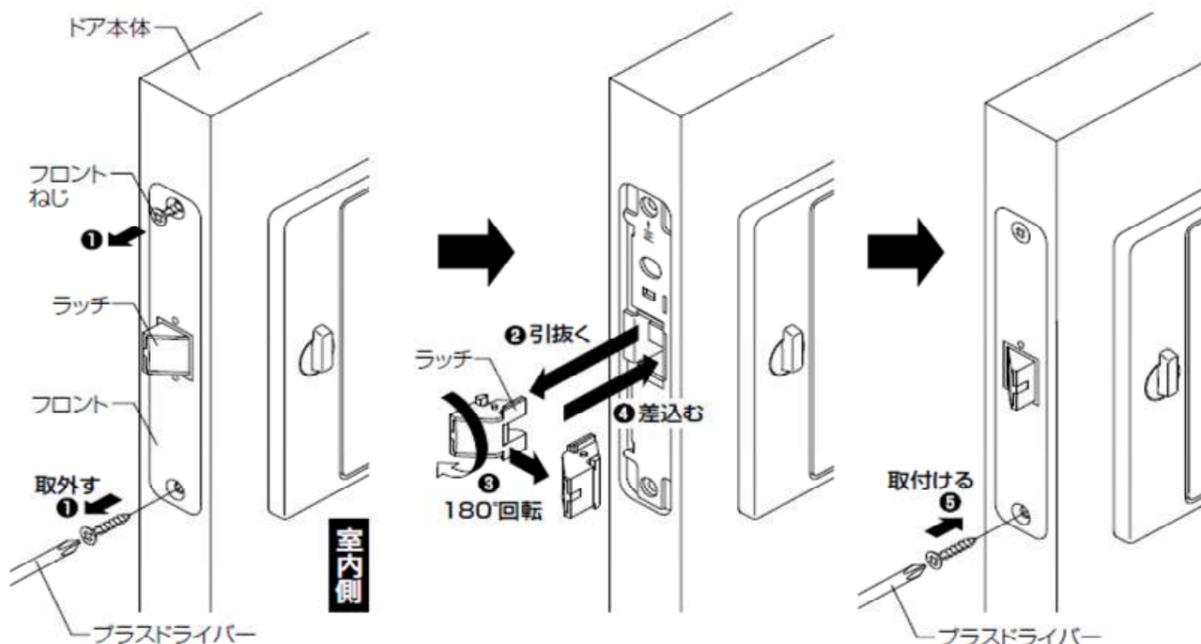
■取付け手順

手順	空錠	簡易錠/表示錠
① 室外側の連結バーを、箱錠の連結バー挿入溝に差込みます。	—	○
② 室外側のレバー脚を、箱錠のレバー脚挿入部に差込みます。	○	○
③ 室外側の台座脚を、箱錠の穴に差込みます。	○	○
④ 室内側のサムターンを縦(上向き)にして、連結バーに差込みます。	—	○
⑤ 室内側のレバー脚を、箱錠のレバー脚挿入部に差込みます。	○	○
⑥ 室内側の台座脚を、箱錠の穴に差込みます。	○	○
⑦ 皿小ねじM4×8で、台座同士を本体に固定します。	○	○
⑧ ねじカバーを室内側に取付けます。	○	○



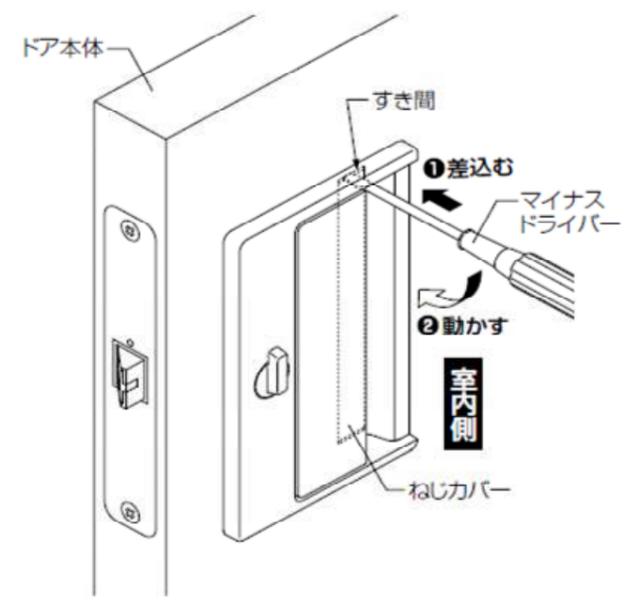
■吊元の変更

- 箱錠のラッチは、右吊元の向きになっています。左吊元として使用する場合はフロントを外し、ラッチを引抜いて180°回転させて差込んだ後、フロントねじを固定します。



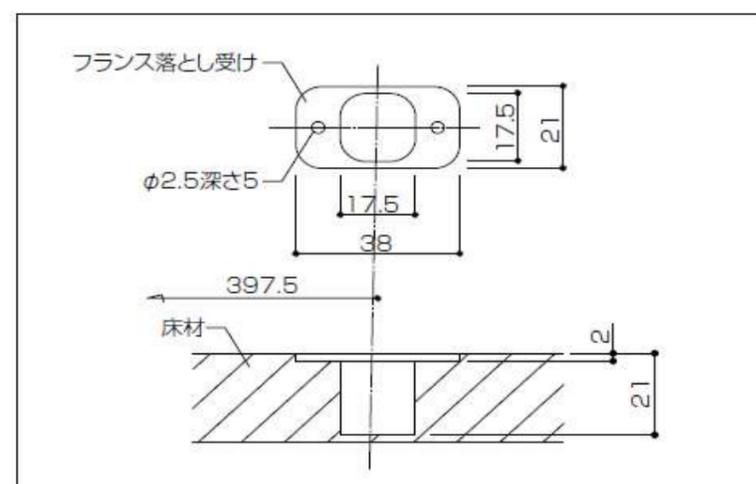
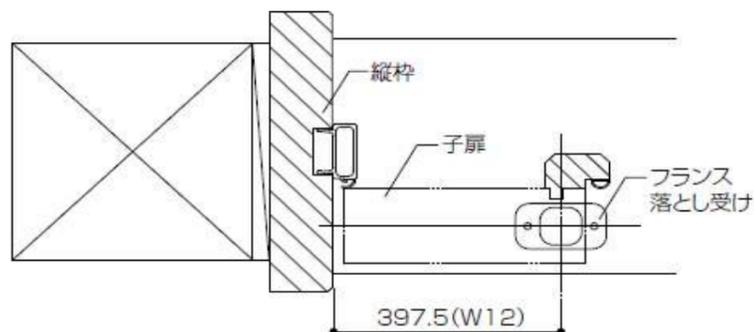
■ねじカバーの取外し

- ねじカバーの上下のすき間にマイナスドライバーの先端を差込んで、矢印の向きにドライバーを軽く動かしてねじカバーを外します。



6 フランス落とし受けの取付け

- ① 下図に従い床面を加工します。
 - ② フランス落とし受けを床面にはめ込み、木ねじで取付けます。
- ※ 専用の沓ずりを使用する場合は、フランス落とし受けは取付け済みです。

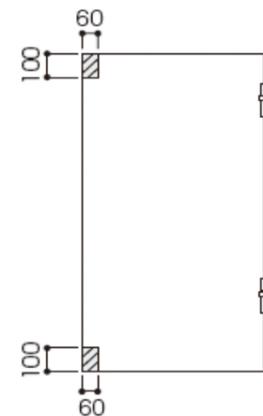


7 ドアストッパーの取付け

<p>■床・壁取付け用(別売)</p> <p>取付けねじ ドア本体 キャッチ 取付けねじ 床面 ドア ストッパー</p>	<p>■本体上部取付け用</p> <p>本体上部に必ず加工をしてください。</p>
<p>■本体取付け用(別売)</p> <p>ドアストッパー本体 取付けねじ ストッパー ゴム</p> <p>※このドアストッパーは、ドア本体付け・壁付け兼用タイプです。</p>	<p>■床取付け用(別売)</p> <p>取付けねじ ドアストッパー</p>

【本体取付け用ドアストッパーおよび、キャッチの取付け範囲】

※下図の斜線範囲内にドアストッパー本体、又はキャッチを取付けてください。
 ※壁取付け、床取付けドアストッパーは、キャッチの位置に合わせ、壁又は床に取付けてください。
 ※ドアストッパー取付け時には、φ1.5の下穴をあけて手回しで固定してください。電動ドライバーなどの電動工具で締付けると空回りすることがあります。



■建付け調整(ストライクによる調整)

■ラッチがストライクの中でガタつく

調整ねじ
ストライク
カバー
トロヨケ

●調整ねじを押しながら、右に回してください。無段階で移動します。

右に押回す。 → 左に移動

■ラッチがかからない

●調整ねじを押しながら、左に回してください。

左に押回す。 → 右に移動

■建付け調整(丁番による調整)

※建付け調整には必ず、手回しドライバーを使用してください。
 ※電動ドリルは、使用しないでください。ねじ頭や丁番が壊れるおそれがあります。



上下の調整	不具合例	調整方法	不具合例	調整方法
<p>●枠側上丁番で調整します。 ●調整幅は、上に2mm、下に2mmです。</p>	<p>1. ドアの上部が枠に当たる。</p>	<p>①上下丁番の固定ねじをゆるめる。 ②上下調整ねじを左に回して、位置を決める。 ③上下丁番の固定ねじを締める。</p> <p>上下調整ねじ(左に回す)</p>	<p>2. ドアの下部が枠に当たる。</p>	<p>①上下丁番の固定ねじをゆるめる。 ②上下調整ねじを右に回して、位置を決める。 ③上下丁番の固定ねじを締める。</p> <p>上下調整ねじ(右に回す)</p>

左右の調整	不具合例	調整方法	不具合例	調整方法
<p>● 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。</p> <p>● 調整幅は、吊元側に1.5mm、開き側に2.5mmです。</p>	<p>1. ドアの開き側が枠に当たる。</p>	<p>① 上または下丁番の固定ねじをゆるめる。</p> <p>② 左右調整ねじを右に回して、位置を決める。</p> <p>③ 上または下丁番の固定ねじを締める。</p>	<p>2. ドアの吊元側が枠に当たる。</p>	<p>① 上または下丁番の固定ねじをゆるめる。</p> <p>② 左右調整ねじを左に回して、位置を決める。</p> <p>③ 上または下丁番の固定ねじを締める。</p>

お願い

● 左右調整ねじは、丁番1つに対して4本あります。調整の際は、各左右調整ねじを均等に回して調整を行ってください。調整後、ケースカバーと丁番が並行になっていることを確認してください。

前後の調整

● 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。

● 調整幅は、前に1mm、後に1mmです。

不具合例

1. 開き側の枠が前に出ている。

調整方法

① 上または下丁番の前後調整固定ねじをゆるめる。

② 前後調整ねじを回してドアを前に移動させて位置を決めます。

③ 上または下丁番の前後調整固定ねじを締める。

注意

● 調整後、本体・枠への固定ねじおよび、丁番本体の止めねじが締まっていることを必ず確認してください。丁番固定ねじの締め忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。

● 建付け調整後、丁番側の本体と縦枠のチリ寸法が5mm以上あるか確認してください。開閉時に本体と縦枠が干渉し、建具がキズ付いたり、丁番が破損する原因になります。

不具合例

2. 吊元側の枠が前に出ている。

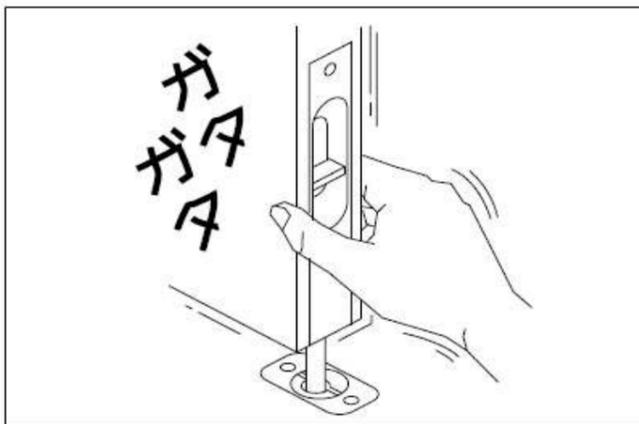
調整方法

① 上または下丁番の前後調整固定ねじをゆるめる。

② 前後調整ねじを回してドアを後に移動させて位置を決めます。

③ 上または下丁番の前後調整固定ねじを締める。

■ 子扉のガタツキ調整(フランス落とし受けによる調整)



1 子扉がガタつく

① コインなどで穴部分を回転させ、ロック棒をフランス落とし受けの内側に当てるようにしてください。

【フランス落とし受け】

